第1章　子どもの遊び調査の概要

1．調査目的

この調査は，あいりん地区の子どもたちが，放課後どのような生活をしているかを，明らかにすることを目的とした。

このおとなむきの生活環境の中で，子どもはいったい誰と，どこでどのような遊びをしているかを把握しようとするものであり，子どもたちが遊ぶのに，何が最も障害になっているかを知ることであった。また調査が，調査で終わることなく，調査に協力してくれた子どもたちの要求を実現する一助になればと，願っている。

2．調査期日

昭和47年6月15日（木）　今宮小学校
昭和47年6月22日（木）　萩之茶屋小学校
　　あいりん小学校

3．調査対象者

今宮小学校児童　210名
萩之茶屋小学校児童　210名
あいりん小学校児童　43名

4．調査方法

各小学校の協力を得て，小学校において，子どもの前日の放課後

の生活を1対1の面接によって調査した。

5．調査協力者

児童相談所職員　5名
西成区福祉事務所職員　5名
学生ボランティア　5名
わかくさ保育園職員　4名
あいりん小学校教諭　6名

6．調査実績

	萩小	今小	あ小	合計
調査対象数	210	210	43	463
調査実数	197	208	38	443
調査不能数	13	2	5	20
集計不能数	3	3	5	11
集計実数	194	205	33	432

＜参考資料＞　（昭47.5.18現在）

	萩小	今小	あ小	金塚
全校児童数	560	961	47	979
地区児童数	414	223	40	416
割合（%）	74.0	23.0	85.0	42.0

調査カード

調査カード

□ 放課後の印　△ 帰宅の印　○ 就寝の印

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
校内遊び	だれとどこで										
屋外遊び	だれとどこで										
屋内遊び（小道）	だれとどこへ										
TV	だれとどこで										
勉強	だれとどこで										
その他（夕食 風呂 医院）など	だれとどこへ										

男・女

1972
6/8

どんな遊びがしたいか

どんな遊び場がほしいか

遊ぶときどんなこと（環境）がいやか

調査者

調査記入例

調査カード

□ 放課後の印　△ 帰宅の印　○ 就寝の印

学年 3　組 2

山本　男・女

氏名

（後で記入）

（実践項可）

なにを・どこで・だれとの順で書く。

時間の長さは ←→ で記入してください。

（ ）は学年 中学生のときは（中1） 大人のときは（大1）とする。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
校内遊び	だれとどこで		鉄棒 <校庭> よっちゃん(3) しげる(4)								
屋外遊び	だれとどこで			野球 <三角公園> さとる(3)から5人と							
屋内遊び（小道）	だれとどこへ					テムテ 20円					
TV	だれとどこで						チャンバラごっこ <となりの家> くにお(2)		<蛇> 弟と		
勉強	だれとどこで					宿題 <蛇> ひとり					
その他（夕食 風呂 医院）など	だれとどこへ							夕	風呂	就寝	

1972
6/8

どんな遊びがしたいか

ローラースケート プールで泳ぐ。

条件をつけずに自由にさせてください。

どんな遊び場がほしいか

広場（大人がいない）

条件をつけずに。

遊ぶときどんなこと（環境）がいやか

酒のみのおっちゃんがいる。

環境を重視してください。

調査者

小道の欄をお忘れなく。

組の内容はいりません。子どもが言うときは記入してください。

自習だけでなくリロバン・学習塾もはいります。

夕食は㋟でも可

㋟としてください。

夕食　風呂　就寝

第2章　あいりん地区の子どもと遊び

第1節　子どもたちはどうして外で遊ばないか

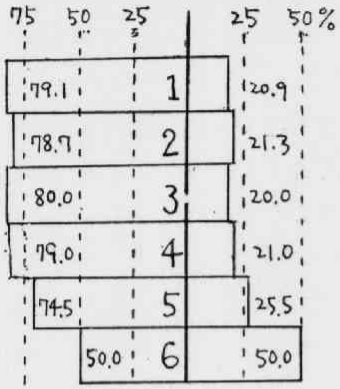
屋外遊びを全然しない子どもたちがいる。どこに，原因があるのだろうか。「屋外で遊びましたか」の問いに返ってきた答えは，**表9**のとおりである。今回の調査では全体で26.6%（男42人，女73人，計115人）の子どもたちが，全く外で遊んでいない。学年別に見れば，低学年では比較的よく遊んでいるが，高学年では遊ばない子どもたちがふえている。一般論でいえば，放課後の学習と深くかかわっているように思われるが，個々のケースについて検討するとき，ここでは一般論は通用しない。つまり，学習のために（宿題など）外で遊べないのではない。6年生の女子の場合を例にとれば，それがよくわかる。萩之茶屋小学校の地区内の6年生の女子8名のうち，外で遊ぶかわりにその時間<塾へ行く>とか，<学習した>という子どもはわずか1名にすぎない。その他の子どもたちは1時間ほど宿題をしたのち，外で遊ぶかわりに<家の中でひとり遊んだり><テレビを見たり>している。<塾へ行く>のはむしろ5時すぎであり，塾に行く子どもたちは一度外で遊び，そして帰宅してから<学習塾>や<ソロバン学校>へ行っている。では，低学年の子どもたちではどうか。今宮小学校の2年生の男子で全く遊ばなかった2名について見てみよう。そのうちのひとりは留守番であり，いまひとりは帰宅するとすぐに個人の家庭教師とともに2時間，それから自分ひとりで1時間ほど学習している。この2名は，むしろ例外といえよう（**表10**参照）。外で遊びたくても遊ぶことのできないのが，子どもたちの現状ではないか。その証拠に外で遊んでいない子どもたちの大半は，バドミントンやバレーボールなどを広い場所でやりたいと願っている。

公園があってもそこは，子どもたちの遊び場ではありえない（**公園の項**参照）。公園には仕事にアブレた労働者や酔った労働者がいて，子どもたち特に高学年の女子たちは外で遊ぶ気になれないし，親たちもとめている。問題は<遊び場>にある。外で遊びましょうと言う前に，その<条件>をつくることを忘れてはならない。

表（9）全体の学校別　　（　）内は%

	はい	いいえ	合計
萩　小	140 (72.2)	54 (27.8)	194
今　小	155 (75.6)	50 (24.4)	205
あいりん小	22 (66.7)	11 (33.3)	33

表（10）地区内学年別比較



地区内の男女別　（　）%

	は い	いいえ	合 計
男	116 (77.3)	34 (22.7)	150
女	113 (68.1)	53 (31.9)	166

地区内
遊ばない子ども学年別，学校別

	萩小	今小	あ小	合 計
1	3	6	0	9
2	4	2	4	10
3	5	4	0	9
4	6	7	0	13
5	9	5	0	14
6	15	12	5	32

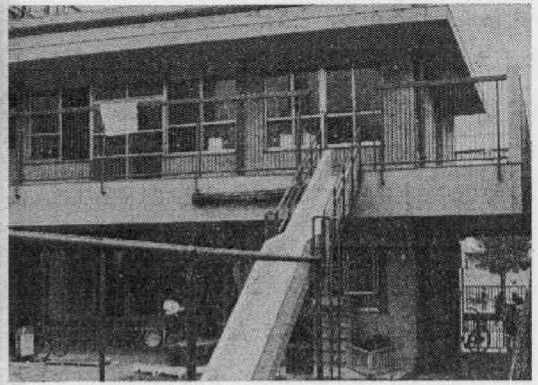
第2節　子どもたちが遊ぶところはどんな状態か

74%の子どもたちは，外で遊んでいる。しかし，どこで遊んでいるのだろうか。まとめてみると，**表11**になる。

表（11）子どもたちの遊び場ベスト3
（　）%

	1	2	3
萩小	家の前97 (49.5)	公園 61 (31.1)	道路 19 (9.7)
今小	家の前91 (42.5)	公園 59 (27.6)	道路 23 (10.7)
あ小	道路 8 (25.0)	公園 6 (18.6)	家の前 2 (6.5)
（平均）	(43.0)	(28.5)	(11.3%)

3校平均して43%の子どもたちが，家の前で遊んでいる。以下，「公園」「道路」とつづくこの傾向は，学年別に見てもさしたる変化は見られない。他地区の子どもたちと比較すればどうだろうか。たとえば最近発表された大阪府教委保体係（昭和47年）の調査結果は，次のとおりである。男子①広場・空地



②道路・公園③公園であり，女子①道路②家の庭③広場・空地といった順位で，子どもたちはフォーマルな遊び場より，インフォーマルな遊び場を求めていると述べている。

また，名古屋の都心の子どもたちについていえば，かれらの遊びの大半は室内遊びに集中しており，屋外遊びは公園・道路が主として使用されている。ただ高学年は校庭を利用していることが，一つの特色である。

あいりんの子どもたちも，屋外の遊び場についていえばさして変化はない。つまり，子どもたちは道路・広場・公園で遊んでいることになる。しかし問題は，この地区における「家の前」や「道路」の状態である。「公園」については後述する。

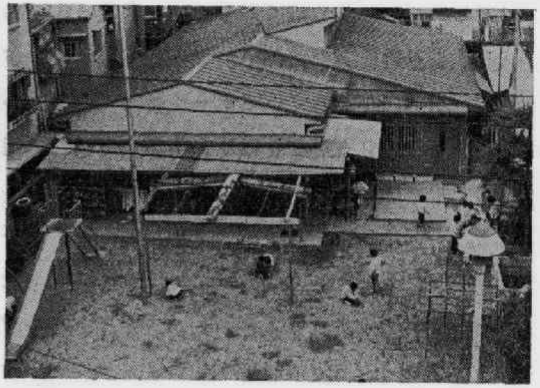
子どもたちにとって「家の前」や「道路」が，けっして＜安全＞な場所でないことが問題である。しかもそれは，＜自動車＞などの交通事情によるものではない。たとえば，おとなのケンカのとばっちりをうける子ども，あるいは路上でのノミ行為の手入れがあり，逃げる労働者に子どもが突き倒されてケガして入院した低学年の女子の例がある。あるいは，卒園した保育園に行こうと思うが，途中

でおっちゃんに頭をたたかれるから，と来たがらない低学年の子どもたちの声も聞く。あるいは子どもたちも，「ノミ行為ごっこ」をして遊ぶということも起きている。子どもたちの<遊び場>はこのような<環境>の中にあることを，まず知らなければならない。このような条件の中で“カンけり”や“ビー玉”をしているので，例にあげたことが起こるのも当然である。「家の前」や「道路」は，結果として子どもたちの遊びをうばっている。たとえばこんな例がある。2時間もひとりで家の前で遊んでいた1年生の男子は，何をしていたのだろうか。「板についていた黒い虫を取っていた」と答えている。遊びというしろものではい。しかし，その子ども自身も好きこのんでそんな<遊び>をしていたわけではない。本心は「砂遊びや広い所で遊びたい」ことが，その子どもとの対話でわかる。この男子が変わっているのではなく，この子どもこそ追いつめられた子どもの姿の典型といえよう。

統計的にはたしかに，あいりんの子どもたちも他地区の子どもたちと同じ条件下に置かれているといえよう。しかしその遊びや日々の生活にたちいってみるときに，それは「全国平均」とか「誰もがかかえている」と言いきれない状態の中で生活していることがわかる。子どもたちにはせめて平均的な条件，いやそれ以上の条件があたえられなければならない。

第3節　子どもにとって「公園」はどんなところか

公園が，子どもの遊びにとって切っても切れない存在であることは，さきに述べたとおりである。外で遊ぶ子どもたちの29.4%



(男52名，女41名)が公園を利用していることは，この地区にあるいくつかの公園を見れば理解できよう。

子どもたちはどこの公園で遊んでいるのだろうか。ベスト3は**表12**のとおりである。この結果が示すように，子どもたちは思いのほか<三角公園>を利用している。特に今宮小学校，あいりん小学校の子どもたち東萩町に住む子どもたちによく利用されている。公園を利用する約30%が，「三角公園」を利用していることになる。今宮小学校についていえば，公園で遊ぶ地区の子どもの47.5%(男15名，女13名)が三角公園で遊んでいる。数は少ないが，あいりん小学校も同様の傾向にある。萩之茶屋小学校の場合は四条ケ辻を筆頭に，お寺公園，海道公園とかなり分散している。

表(12) 子どもたちの利用するベスト3

( )内は%

	1	2	3
萩小	四条ケ辻 20 (37.7)	お寺公園7 海道7	三角3 みどり3
今小	三角 29 (41.5)	天下茶屋7	円盤7
あ小	三角 2 (66.7)	海道1	

ところで，子どもたちは満足して「公園」で遊んでいるのだろう

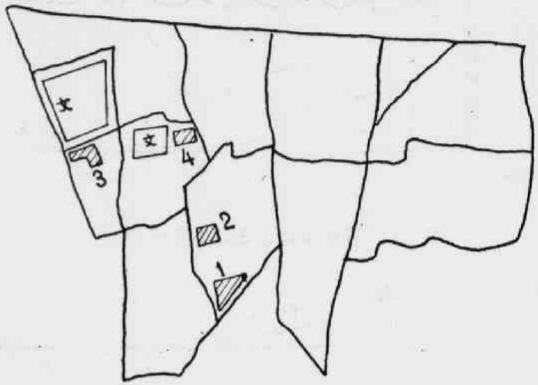
か。たとえば，3時間ちかくも三角公園で遊んでいた女子（5年生）は，こうもいっている。「三角公園で遊んでいると酔っぱらいのおっちゃんが多くて，ボール遊びなどしていてボールがあたると追いかけてくる」。おとなが，子どもの遊びをじゃますることへの抗議である。30分ほど公園で「ブランコ」や「ジャングルジム」で遊んでいた4年生の女子は，「三角公園では，おとながたくさんいてバクチをやっているからイヤだ」と言っている。これは女子に限ったことだろうか。低学年の男子の場合はどうだろうか。すべり台やブランコで1時間あまり遊んだ2年生の男子は，「おとなが文句を言う」と不満を述べている。このことと関係しているのか，低学年の男子はほとんど公園で遊んでいない。利用者のほとんどが高学年の男子であることは，公園の性格の一面を物語るものである。しかし高学年の男子も例外でない。野球を4，5人でしていた6年生の男子の場合でも，イヤなことは「おとながジャマしにくることだ」と言う。とすれば，子どもたちはけっして喜んで遊んでいるわけでない。大多数の子どもたちは，おとながジャマするので公園で遊ばないし，遊ぶ子どもたちも「しかたない」「ほかに行くところがない」ので遊んでいるにすぎないと見るべきだ。もちろんおとなのいない公園など，あるはずもない。しかしおとなたちが公園で何をしているかが，問題である。すでに述べたように，特に三角公園およびその近辺はノミ行為の場となっており，子どもたちがのんびりと遊ぶ場などはない。

子どもたちは公園で遊ぶといっても，具体的に問いつめていけば，三角公園のブロック壁の上で1時間もうろうろしていたという

例さえある。しかたなく利用しているのが，現状である。子どもたちのいろいろな声はそのまま，子どもたちが安心して遊べる場がほしいという声につながる。

第4節　公園のスケッチ

公園の分布



1．三角（東萩）公園　3,710m²
2．海道公園　1,578m²
3．四条ケ辻公園　3,389m²
4．甲岸（お寺）公園　834m²

1人当りの公園面積

全国平均	3.5m²
大阪市平均	1.01m²
西成区平均	0.35m²
あいりん平均	0.20m²

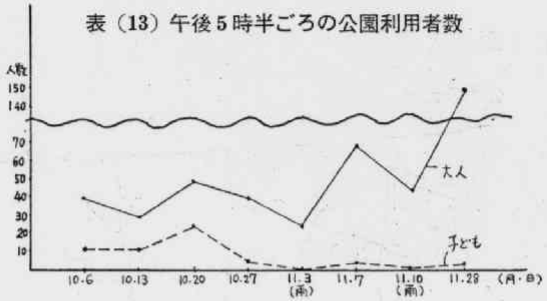
（自然公園は除く）

あいりん地区の公園内のうち，三角公園，海道公園，甲岸公園の状況について，約2か月（その間平均週に一度）にわたる非参与調査をもとに考察してみる。これは主として暗くなってからのちに，

どのくらいの子どもたちが公園内で遊んでいるかを調べたものである。各公園における，おとなと子どもの数は以下（**表13・表14**）のごとくであった。

表（13）午後5時半ごろの公園利用者数

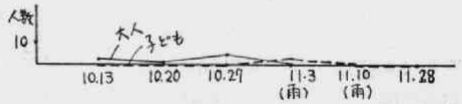
（三角公園）



表（14）午後6時ごろの公園利用者数

（海道公園）

（甲岸公園）

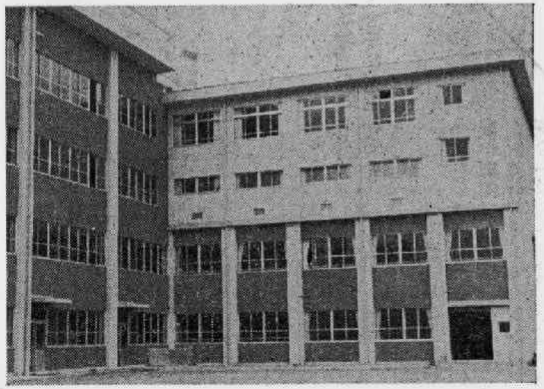


このように，海道公園・甲岸公園においては，おとな，子どものいずれも非常に少ない。その一つの要因としては，水銀燈などの夜間設備の不足等によるものだといえるだろう。しかし，三角公園においては他の公園と性格を異にして，おとなの数が子どもの数に比べて非常に多いことがわかる。いったい三角公園は，どのような人たちが，どのようなことをして利用しているのだろうか。具体的

に，三角公園での実情を提示すると，以下のようになる。

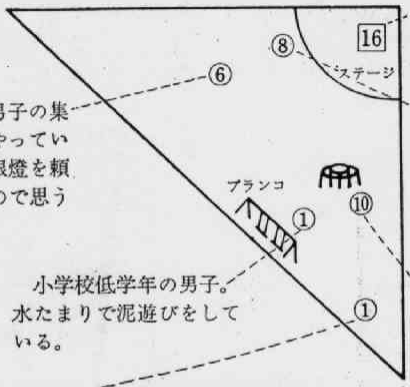
〔スケッチ1〕　**11月16日午後1時（晴）**

いつも，この時間からほぼ4時半ごろまで，三角公園の内，あるいは周辺では，競輪・競馬等のノミ屋3，4か所開かれ，たくさんの労働者が，私設車（馬・舟）券に投資している。この日は，公園内に労働者を中心としたおとなが約150～200人程度たむろし，まさに公園はおとなによって占領されているといっても過言ではないほどである。その中で，4人の子ども（男子2名・女子2名）がベンチに座っている。彼らは，何をするともなくただぼんやりとしていた。公園内では，数か所でたき火がたかれ，おとなはそれを囲んでギャンブルに熱中していた。一方，公園の端のほうでは，注）コイン投げのギャンブルを7，8人ぐらいでやっていた。



（注）2m先ぐらいに，目標となる円形などの図形をえがき，その中にうまく投げいれたものが，その目標の外に出ているコインをもいただけるというもの，普通使用するコインは10円硬貨である。

（スケッチ２）図５　10月20日　午後5：30



いつも見られるとばくで、ステージの上で２か所開かれている。とばくの種類はサイコロを使ったもの。

小学校中・高学年の男子の集団で、ソフトボールをやっている。暮れた公園で、水銀燈を頼よりにしてやっているので思うようにいかない様子。

小学校中・高学年の集団が、ステージの隅で遊ぼうとしたら、とばくの見張りらしい人に「うるさい」という感じで、追い払われた。すぐその後、全員が竹を持ってチャンバラごっこを始める。

小学校低学年の男子。水たまりで泥遊びをしている。

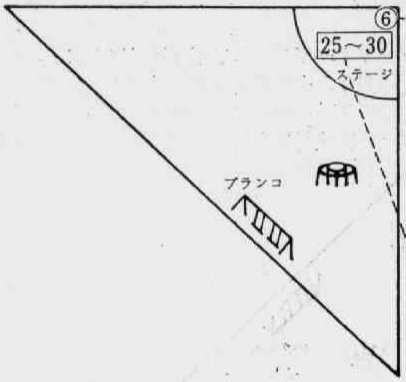
小学校低学年男女と幼児で集団を作っている。いつも見かける子どもが６人ぐらいいる。公園内を３、４人ずつぐらいのグループに分かれて活発に移動している。並行して、公園内を２台の自転車に交代して乗りまわっている。

親子（小学校低学年男子と父）でベンチに座っている。時々、父より離れて、すぐ近くでひとり遊び、父はそれをながめている。

注） このほかに、公園内には約20人ぐらいのおとながいた。その大部分はベンチなどに腰掛けていた。

注） ○の中の数字は児童数　　□の中の数字はおとなの数

（スケッチ３）図６　10月20日　午後6：00　（スケッチ２）図１の30分後

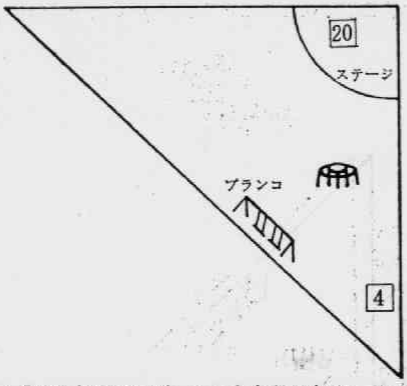


小学校低・中・高学年の５人と、幼児１人の集団。捨ててあったマットレスの上をジャンプして遊んでいる。このようにまとまりのある遊びあるいはごっこといえるものはあまり見られず、何となくあるもの（廃物等）を利用して、適当に遊んでいる感じ。

いつものとばく（サイコロ）

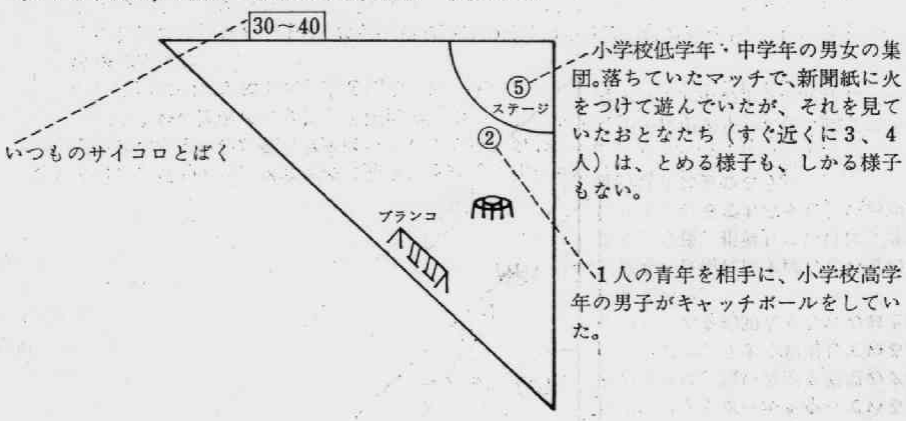
注） この時間には、公園内で遊ぶ子どもは、全くいなかった。この時間をすぎるとおとなのみの公園と化したようだ。園内には、とばくをやっているもの以外のおとな（労働者）がかなりいた。ベンチに座っているか、寝ているものが、その大部分を占めていた。

（スケッチ４）図７　11月３日　午後5：30（雨）



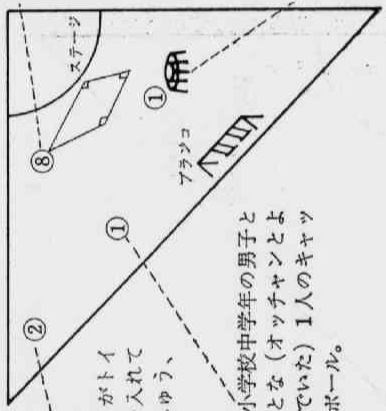
注）今日は、「雨」と「休日（文化の日）」という条件が加わったためか、いつもの公園とは様子を異にしていた。先ほど来降っていた雨は、あがっていたが、公園はおどろくほど人が少ない。図３のように、公園内で遊ぶ子どもは全くなく、おとな（主として労働者）の数もベンチに１人、火を囲んでいる人が４人いる程度で、全体としては非常に静かであった。
しかし、この静けさの中で、ステージの上につくられたとばく場の人々だけが、いつもとかわらぬ様子である。その近くによると、かけごえと、つぼ（実際は空カン）をふる音がよく聞こえる。

（スケッチ補１）図補１　昭和48年８月30日　午後6：00



注）このほかに、公園内には約80人（とばくをやっている人を含める）ぐらいのおとな。
その内、５、６人は、ベンチや地面に寝ている。

（スケッチ補２）図補２　昭和48年８月31日　午後5：30



以上のようなスケッチから，日中から夕方，さらに夜にかけて公園（特に三角公園）はおとなの専用物と化す。また，寒さのきびしいときなどは昼間から公園で何か所もたき火を囲む風景が見られ，おとなの数は激増する。このような事態から，少なくとも日中は，公園を子どもたちに最大限，還元する必要が生じてくる。

子どもたちにとっては，公園内ですら集団的な遊びをすることはほとんど不可能であるといえる。そのために「公園」→「家の前」→「屋内遊び（テレビ）」というプロセスを，子どもたちがたどっていくのではないかと考えられる。

なお参考として，夏休み期間中の三角公園の利用について，同じようなスケッチを提示する。